

区分	番号	項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	これからの対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動スペースが十分に確保されているか	95%	5%		・人数が多い時にはお部屋を分けてくれている ・公園や外のスペースを活用している ・工夫されながら活動している	毎日1～2回は近くの公園で活動やお外遊び等行っているため継続していきたい。 2つある建物の部屋や庭等使いスペースの有効活用をしている。人数によって広く部屋を使えるようグループ分けするなど工夫している。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	100%			・配置数が手厚く感じ安心できる	定員10名に対し、現在正規・非正規職員合わせて9名（児発管・保育士4名・児童指導員3名・指導員2名）が在籍し、状況に応じた配置もなされており適切であるが、更に職員の専門性や経験値を高められるような取り組みを展開していきたい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	95%	5%		・子供用のトイレがあると良いと思う	借家であるためバリアフリーに対する大きな改修はできないが、利用児一人ひとりが危険を感知でき、それに対応できるような支援等行っているため継続していきたい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%				毎日チェックシートに沿った清掃、除菌・消臭、除菌水の噴霧等継続的に行っている。防寒・防音にも気を付けている。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	100%			・個々に合わせ計画されていると思う。	お子様や保護者様のご意見や願い等をお聞きし、それを実現するためにどのような支援が必要かを考え、プランを保護者様と共にすり合わせ作成していきたいと思います。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%				支援内容の説明は行っているが、ガイドラインの内容説明はまだ不十分なところがあるかもしれないため、機会をつくり説明を行っていきたい。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%				毎月部門内会議を実施しており計画に沿った支援が行われているか振り返り評価しているまた保護者様とも最終的な評価も行っている。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	100%			・毎月楽しそうな活動が更新されている ・とても楽しそうな内容なので自宅でできそうなものは取り組んでいる	活動に生かせそうな様々な情報を検索したり発見したりしながら、ゆずオリジナルの活動となるようにアレンジして実施している。

	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	74%	21%	5%	・園外療育時にその場所にいるお子さんたちとのかかわりを持たせてくれている。	コロナも落ち着いてきたので交流の機会を持てるよう計画していきたい。園外活動時には積極的に関りを持てるように仲を育む取り組みをしたり一緒に遊んだりしている。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%				できる限り丁寧な説明に心がけている。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	100%				できる限り丁寧かつ分かりやすい説明に心がけている。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（パルソ・トレーニング等）が行われているか	100%			・その都度支援してもらい参考になることも教えていただいている。	・就学支援に関する保護者会（勉強会）を実施した。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%			・いつもいろいろ教えてもらい嬉しい。 ・毎回細かく伝達してくれてあんしんしている。	報連相を怠らず共通理解を深めていきたい。そのための手段を今後も更に工夫していきたい。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%			・定期的な面談を実施してくれており、急な相談にも快く面談を組んでくれる	いつでも話しやすい環境づくりと、助言に対する知識を付けるための勉強を引き続き実施していく。更に安心して相談や面談ができる環境づくりに取り組んでいきたい。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	75%	10%	15%	・保護者会は作らずに良いが気軽に交流できる場があると良い。	交流できるスペースを作り交流できる仕組みを作っていきたい。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の整備がされているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	100%			・されている。	どの職員でも同じ対応や受け答えができるように日々連携を取りながら意思疎通を図っていききたい。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%			・スタッフの皆さんが明るく優しく話しやすい ・気軽に質問できる	気軽に話しかけていただける雰囲気づくりをしている。スタッフ同士仲が良いのが自慢でもある。軽微な情報はSNSを活用し柔軟な対応ができているが、情報の保護の部分においてSNSの活用を十分気を付けていきたいとも考えている。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動の概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	100%			・毎月情報発信がされている	毎月のお便り発送は開所当初から欠かさず行っている。活動予定もより細かくねらいを載せて読みやすく作っているが、要望があれば更に充実した情報発信ができるよう考えたい。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	100%			・十分されている	大切な情報のため慎重に取り扱っていきます。
非常時等	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	100%				今年度はBCPを策定しており充実をはかっている。訓練も毎月計画に沿って実施している。

の 対 応	⑳	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	100%			・毎月の避難訓練の実施されており報告もされている	毎月実施しており実施報告を保護者様には写真等で行っている。今後も引き続き目に見えるような形で行っていく。
満 足 度	㉑	子どもは通所を楽しみにしているか	100%			・何が楽しかったのか教えてくれます ・楽しく活動していて子供の成長を感じています	お子様方が楽しい、明日もゆずに行きたいと言ってもらえるように、日々努力していきたい。
	㉒	事業所の支援に満足しているか	100%			・ゆずに通えるようになって本当に良かったです。これからもよろしくお願いします。 ・毎回楽しい活動の報告をしていただきありがとうございます。 ・強いて言うなら栄養面を考えた給食があると嬉しいな。	嬉しいお言葉ありがとうございます。これからも毎日お子様方が楽しく通えて、保護者様も居心地が良いと感じてもらえる環境を作っていきたいと思います。 ゆずの良いところは職員が仲の良いところです。その雰囲気を大切に毎日笑顔でお子様や保護者様をお迎えしたいと思います。 給食に関しましては今まで同様提供は行いませんのでご了承ください。

区分	番号	項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、 工夫している点、改善内容
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用児が多い日はお部屋を分けており、活動に最適なスペースを確保している
	②	職員の配置数は適切である	○			定員10名に対し、現在正規・非正規職員合わせて8名（児発管・保育士3名・児童指導員3名・指導員）が在籍し、手厚く配置がなされている。職員の専門性や経験値を高められるような取り組みを事業所内外において実施している。職員に対する専門指導外部講師に療育や活動に関する直接的な指導をお願いしており今後も継続する。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			借家であるためバリアフリーに対する大きな改修はできないが、トイレの手すりや大きな段差のステップなどできる範囲で行っている。情報伝達では、絵や色等わかりやすい方法で伝えている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			誰もが同じレベルで取り組めるようにチェックシートを使い清掃、除菌・消臭、除菌水の噴霧等行っている。CO2濃度や衛生チェックに関しては1時間に1度の実施としている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			人事考課を導入・運用し5年目となり、業務改善を含むPDCAサイクルが浸透してきているように感じる。職員とは年に2回以上の面談を行い、人事考課における結果等のフィードバックや様々な意見交換が実践できており、その結果職員間での意思疎通もしっかり行えるようになった。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートの実施と公表、また結果を職員に周知し全員で改善に対する取り組みを毎年実施している。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	○			アンケートの実施と公開をHP上にて行っている。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	現在、外部評価は未実施だが実施できるように前向きに進めていきたい。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			内部研修は計画に基づき毎月全職員対象で実施しており、外部研修は必要に応じて参加している。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			保護者との面談を定期に実施している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			専門指導職員とも連携しより効果的なツールを使用している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」は適切な選択がなされており、具体的に支援内容を設定している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			計画を全職員に周知し計画に基づいた支援が展開できるよう取り組んでいる。

適切な支援の提供

⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎月担当者を中心に立案しているが、活動の振り返り研修も毎月実施して、より効果的な活動にするために修正したり新たなプログラム構築をしたり全職員で考えて行っている。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			前々月までにプログラムの作成を行い、複数の職員による細かなチェックを行い、出来上がった活動プログラムを各ご家庭に配布している。保護者様からもいろいろなプログラムがあり飽きない、たくさんの経験ができるなど嬉しい言葉もいただいている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している	○			複数の関係職員で検討し、全体のバランスを考慮しながら作成している。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎朝利用児の確認・活動の確認、職員配置の確認等実施している。ZOOMも取り入れながら引継ぎ等も実施している。またそれらの内容が職員全員に確実に伝わるようSNSでの共有をしている。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などを共有している	○			毎日参加でいる職員でミーティングを行い主に前日の振り返りも行っている。（管理者ミーティング・部門別ミーティングを実施）記録もと、ミーティング不参加職員には別途連絡し、ZOOMも取り入れながら引継ぎ等実施している。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			気づき・振り返り等も含め記録をして、療育や支援に問題点があれば関係する職員と共に検証・改善に対する話し合いを実施している。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			児発管を中心に関係機関との連携を図り助言等をもらい、担当者との打ち合わせを実施し見直している。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			会議には管理者・児発管、その他必要と思われる職員が参加している。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			必要に応じて連携を取っている。
㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在は在籍していないが必要に応じて行っていく。
㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在は在籍していないが必要に応じて行っていく。
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			情報交換・意見交換を通じ情報共有と相互理解を図っている。連携を図るための会議を実施している。
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			学校等からの要望であったり、こちらから情報提供をしたり、連携と共有を図っている。学校・保護者・事業者の3社による面談も実施している。
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修には積極的に参加しており、専門機関との連携も図れている。
㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○	交流の機会を中々持てておらず、交流を持ってくれる保育園等を探し、今後定期的に交流の場を設けていきたい。

関係機関や保護者との連携

②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			矢板市の主催する会議へ管理者・児発管が参加している。
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			毎日の引継ぎを口頭と連絡帳で細かく行い、必要に応じて写真や動画を記録し確認をしてもらっている。個別学習後、保護者から要望があればフィードバックを行い相互理解を図っている。
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			適宜面談やオンライン面談を通し行っている。事業所に希望者が集まり勉強会・懇談会も実施している。
③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時・変更時に行っている
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			支援内容の説明は行っている。ガイドラインの内容説明は行っているが、伝達が不十分な可能性もあるため、要望があればより丁寧な説明を行っていきたい。
③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			面談は定期的実施しており、その中で助言や支援を行っている。連絡帳等を通して保護者様が悩まれている様子があった場合には速やかに連絡を入れてお話を聞いて、助言や支援を行っている。要望に応じた個別面談や急な面談にも対応している。
③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会等はないが、保護者が集う場(懇談会や勉強会)の提供を不定期ではあるが実施した。
③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			迅速かつ適切な対応に心がけている。
③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月お便りを発行し、それに合わせて毎日の活動内容やその狙い、活動の実施内容を詳細に記した計画表を発行している。専用のSNS(LINE@)を活用し迅速かつ確実な情報発信に心がけている。
③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○			事務室にて管理しており、職員間においても情報の管理に関する注意喚起を口頭や文面にて行っている。
③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			子供たちとの伝達方法の中で絵カードの使用について工夫をしている。また絵カードは会議の場で話し合い更新したり追加したりしている。意思疎通を図るツールは学校やこども園等とも連携し共通のものを使用することで子どもたちが困らないよう配慮している。保護者とは細かく情報を共有することが望ましいと考え、SNSを主に利用し詳細に行っている。
④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域で開催されるイベントへの参加をしたり、地域交流行事(ゆずフェスタ)を開催して地域との交流を図っている また毎月一回近所のごみ拾いを交流の一環で行っている。今年度は多くの地域の方がご参加してくれた。
④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			BCPを策定している。 避難訓練は様々な災害や事故等を想定し行っている。

非常時の対応

④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年間と実施のための計画書を作成し様々な災害や事故等を想定し毎月実施している。
④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			契約時の調査票にて確認し、利用時間内に投薬が必要な場合には投薬表の提出をお願いしている。
④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	○			保護者からの聞き取りで把握をして、医師の指示書も保護者さんより提出があれば確認している。アレルギーの一覧表を作成して、食事やおやつの前に必要に応じて確認するようにしている。
④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット報告書をまとめ毎月事業所内研修を実施している。研修に取り上げられない報告書は全員目と通すようにしている。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			栃木県が開催する虐待防止・権利擁護研修に参加し、参加した職員による研修を事業所内にて計画的に実施している。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		現在まで身体拘束の実態がなく、今後もその必要は無いと考えている。